

裸男が杭瀬川に飛び込む奇祭！ 節分会ではだか祭開催される！

- 2月3日（月）節分の日、大垣市野口地先の宝光院において、恒例の「節分会はだか祭り」が開催されました。一年間の災い・厄を杭瀬川に入って身を清め、厄除開運を祈願するという伝統の行事です。当日は、子供から大人まで約90名が参加し、厄年を迎える男たちが「宝光院裸祭」と書かれた六尺褌を身にまとい、見物客の間を縫って練り歩き、氣勢を上げながら水温11度の杭瀬川を渡りました。河川敷には、大勢のアマチュアカメラマンが詰めかけ、しきりにシャッターを切っていました。



氣勢を上げて杭瀬川を渡る裸男たち（杭瀬川6.0K付近）

写真：岐阜新聞社提供

【出張所コメント】

- 杭瀬川と言う河川名は、西暦672年の「壬申の乱」で、兵士がこの川で疲れきった身を癒やしたこと、「苦（く）を癒した」ことが由来とされています。1200年もの歴史をもつ、ひだりめ不動「宝光院」では約70年にわたって裸まつりが行われ、杭瀬川の流水で厄を落とす「みそぎ川渡り」が有名です。『苦を癒やし、厄を落とす杭瀬川！』なんて考えますと、地元の河川に愛着心をもち親しんでいただけるような気がします。